

第一回大團議案書

1、關西地方協議會に關する件

労働者戦線の統一が如何に當面重要であるかは最早論ずる迄もない、今日本の労働者が當面してゐるものは兎悪なる日本支配階級の暴壓である大小労働組合の對立併立がある依つて漸來る處は日本労働運動の委微波滯がある、此の沈滯を克服し嵐の如き逆襲を組織するためには労働者戦線の統一結集以外にはない然し乍ら我々の統一方針は幹部と幹部の堅合に依つて決する日本労働俱樂部の如きものであつてはならない。日本資本主義の心臓たる九州の労働運動の現情を見るに資本の猛襲に對して只委微沈滯し大小労働組合の對立があるのみだ我等はこの沈滯を克服し下からの戦線統一をはかり名實共に労働者の闘争力を強力にし力を結集する處の司令部たる階

2、失業反對闘争に關する件

級的労働組合の建設の爲め戰闘的各地方の労働團體を結集し現在の資本の攻勢に對して逆襲すべく關西地方協議會の結成に拍車をかくべく我が統一同盟より各地方團體に提示なし戦線統一の闘争へ動員せねばならぬ。我等陣營強化の爲め關西地方協議會の結成へ積極的に闘ねばならぬ、斯くしてこそ我等の陣營は強化され、資本主義打倒への前進を齎すものである。

理由

現下に於ける失業軍の激増は資本主義經濟組織の缺陷を現實